



わがむらの

昔ばなし

ふるさとの文化財

“柱松”

—下中小野自治会—

「はしらまつ」
牛馬はんじょう。
少年達が口々に叫んでたいまつをほうり上げます。



▲ 昨年の「柱松」、より

私が小学校一年、昭和十五年を最後に、途絶えた柱松が昭和六十一年、四十六年ぶりに復活し、今年で三年目を迎えます。

下中小野の柱松が始められた年代は定かではありませんが、牛馬の安全を願って行われた行事と思われま。

当時の牛馬は役畜として農耕になくはならない存在であったため、牛馬が疫病等の難から、のがれるように、また家畜への感謝の気持ちを現すために催した行事と言われています。

柱松は、大きな孟宗竹の先端部を割って「ほうずき」の形をつくり、中に麦わらを詰めて立てます。下から「もがら」(竹がらで松明をつくる)に火をつけて、「柱松、牛馬

繁盛」と叫んでほうり上げます。

下からほうり上げる火、落火する火が夜星に弧を描き、やがて柱松に点火されると美しい火の粉がチラチラ舞い落ち、夏の夜空を焦がす様は何とも形容しがたい風情があります。

三隅町では、戦前まで下中小野と同様、上中小野、中村、市、豊原、浅田等、数ヶ所で行事が行われていたようですが、全国的には京都北山の柱松が有名で、山口県では周東町祖生を始め、県内に広く分布し、近隣でも、三見や真木、深川、日置町でも行われています。

しかし、大方は成人が大規模に行うもので、少年の手で行うことは珍しいとされています。以下この模様を風土注進案では次のように述べています。

「七日より十四日まで柱松として、少年の者相集大竹の末へ藁にて酸漿の形を拵へ、下より芋から松明へ火を付、投入ほうつきを焼捨戯と仕候」と。
今年も八月九日、夜八時から、この素朴な伝統行事が自治会あげての三世代交流の中で行われます。ぜひ一見を。

(下中小野 中野博文)

役場人事

七月一日付()は前

○総務課係長同格

河添 隆 信

(総務課主任主事)

○教育委員会総務課長兼学校
教育課長

田 辺 潤 一 郎

(教育委員会総務課長兼総務係長兼学校教育課長兼学務係長)

○教育委員会総務課総務係長
兼学校教育課学務係長

中 野 義 三

(教育委員会総務課兼学校
教育課主任主事)

8月は道路をまもる月間です

みんなが使うみんなの道路
みんなで大切にしましょう!

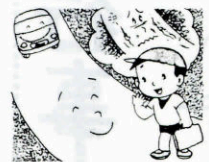
- 道路に空かんやごみを捨てないようにしましょう。
- 道路に置看板、商品、自転車などを置かないようにしましょう。
- 道路に看板、日よけなどを出す場合は、道路管理者の許可がいます。

“よごすまい きれいな道路が まち自慢、

(道路をまもる
月間推進標語)

建 設 省 県 町
山 口 隅
三

道路を
まもる月間



今月の納税
町県民税 第2期分
納期限は8月31日(水)です